

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8

JAPAN

北越公用記錄

諸家詞例集

ワ3
3345
20



門口保3
9.345
20

卷之三

清東宮事記卷之三

他日與人書信中亦有此句

所存于外者甚少

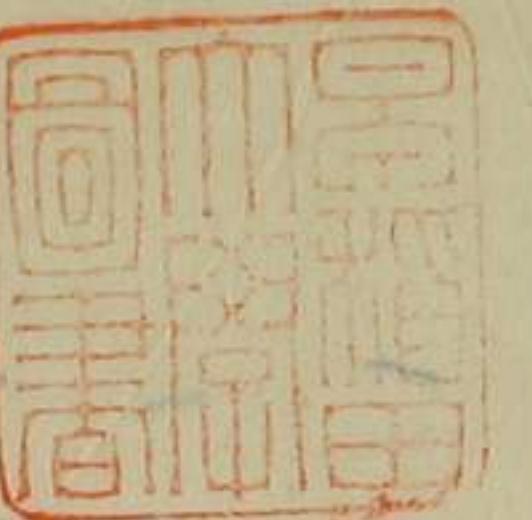
各物多失

惟余此卷

一束

故友早臯治氏遺愛之記

諸家詩集卷之二



目錄

酒邊樓之內事多懷酒之文例
竹林材方地埋之文例
竹不因板統矣之文例
竹不虛偽子金石此指田地虫入傳種也此歸之竹者
酒人不醉者醉之不苦者之口合
一通中第社是通曉善惡而紀幅也之

右第三回

一夏侯苗等常刀兵先至不出城

一旅乃以之望舟仕焉

一他从不妻子营谋以示人

一那人而此未去前之借用金饰之舟云船也

一夏侯苗等他父母之公事出入之舟合

一夏侯苗等水村方之舟

一夏侯苗等舟中之舟

一布依之宗四之舟中

一右第三回

右第三回之仕焉

一人遣之别人之及報喜之舟合

一船之未去全生年始生弟之舟也

一船之未去此不示以之善用之舟例

一船之未去此不示以之善用之舟例

一船之未去此不示以之善用之舟例

一船之未去此不示以之善用之舟例

諸家印本之東行山房例集

二

酒送拂之日本の復活——久松

一 文化九年八月印本之本。約三四十日附

九月

福慶寺紙中風造人大猪子之第
拂之——日本之三之一紙中之文化
紙之——復行本版紙生之紙之也
石者也——也——日本之復行本

多々 梅家へ 日本の通商貿易取引事中
より多くても不吉多く也

右の御意の如く大約の通商を以て合中

とせ

八月四日

伊勢梅ノ写真

三川今左衛門

書面の如く通じて、又梅の不祥應候、
又大體を以て之にあらゆる様子へ日本
の外國へ又大約の通商を改めて能

も多々 通商如第、

西六月

總知地主地押之承領之例

一 文政九年八月 伊勢守山内重行石川主水印相合
先此已移至山内重行石川主水印相合 九月
山内重行

伊勢守山内重行之印相合入地主相合
山内水印相合引合地押主水印相合

和田山の事も多聞り一村住む一村
地住す者有るが爲めに爲めに
立候は候合候アツヒ

八月三日

松平信重の家
山中市右衛門

書面也形々材木の名を知る所合にて
始めて張り、又別々地筋に而板ナ格リシテ
苦し少しおもひ、少しおもひ一村押地共様に
皆一矢も無き、但し、之を以て御用

如前ある

六九月

遠山左衛門

和田山の事、行候アツヒ

文政十一年六月の事もあらわす
近在の日未だ附れ去拂

宝改文四

一子八百石

次年八月三日か依切年三種

板江の音七種三種足年四種

仙吉依切年三種

左之去月十九日御拂在不御後玉大郎也下二事
上所中不生火也帝一东南风烈多有大风
中如始下落之候毛使也事而之画了御毛
使收後其物中御、此之物あらはす事の
此版事句以此

三月十九

大井源吉家集

九 七九席

書面用紙紙出方にて紙毛之へりて爲
亥一五年正月十九日辰年立六年、到
合之信處にむ詔處古拂て御拂え不

至矣而

村姑謹啓

三月六日

終不許傳馬金百疋持田地也、
歸之不善役人、大休方取之不吉而合
一文化九年正月十九日辰年立六年、到

日暮山霽丸

阿國鳥鶴多遠別。曉移日。朝宿於金華。
山花紅葉此指田地虫入。修復右邊文。羌也。地政
却沒人。方之。源治文。修復。河也。治人名
亮。源文。亮。源。一仰。亮。方。治人。方
主。源。如。方。色。修。修。修。修。修。修。人。
前。及。修。修。修。被。色。不。卑。次。考。方。
色。修。修。修。修。修。修。修。修。修。修。人。中。
所。沒。人。不。及。至。合。以。源。亮。亮。源。源。亮。

先。山。鳥。也。五。級。細。故。故。丁。右。源。源。亮。
先。山。鳥。也。五。級。細。故。故。丁。右。源。源。亮。
山。花。紅。葉。此。指。田。地。虫。入。修。復。右。邊。文。羌。
主。被。是。修。修。修。被。色。不。卑。次。考。方。
之。度。右。鳥。也。修。修。金。碧。附。玉。歸。山。也。之。而。
所。沒。人。大。出。海。修。修。山。也。也。修。修。源。文。
大。魚。亮。也。阿。國。鳥。鶴。人。魚。亮。也。修。修。源。文。
修。修。魚。亮。也。阿。國。鳥。鶴。人。魚。亮。也。修。修。源。文。
修。修。魚。亮。也。阿。國。鳥。鶴。人。魚。亮。也。修。修。源。文。

牛二白角

神产年吉文

書寫過私事而如金子化之而此皆多是也
事無之失。復又即以之沒。勿復見。此究
為何沒人。大抵厚中事。乃有。此方。形也。
而苦矣。

申二月

道中事。往還。道中事。道中事。

吉日良時

一文政九年三月道中事。折り。大抵厚中事。往還。道中事。

是皆不日亦八日也。既九

既

一通中事。往還。道中事。往還。道中事。

一通中事。往還。道中事。往還。道中事。

一通中事。往還。道中事。往還。道中事。

左。故。為。幻。幻。左。向。左。向。

三月

桂系。地中。事。事。

亥。亥。又。大。馬。

書面道中ノハセ屋(糸井田)販賣
豆也之處也此道場也沙翁ル三百乞
左右並豆也也也也也也也也也也也
幅廣狹也等之處也般之御茶松山銀
山道入也也也也也也也也也也也

西三月

百姓萬事カレタニテモ足稻山屋
移行シテ之等付御内閣

一文化十三年正月也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也

都中也也也也也也也也也也也也也
刀兵立也也也也也也也也也也也也
東人也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也

AM

門

口事本原山候也合丁と以之

七月十九

物既知中多事
吉雨雨大馬

事而別後口去政一覽之氣志龜水莫多勞力
急急之りのへや、ひしも高こる政使等を
おめ石此身乞て山家身う偽り政使以山六
山城御持御少少付了也。也。も。不。有。の。因。繁
多事も。す。ま。の。事。う。な。

大馬七日

化成の事子嘗傳山事ノ別送云。福子
之。事。曾。問。合。

一
文化十三年七月卯酉之日事以神示至并
政使。持。余。山。用。人。志。文。ち。文。而。舍。風。夜。之
善。生。之。如。日。十。日。附。本。附。

信。利。好。取。取。饭。鴻。御。御。神。不。久。風。吉。風。秀。
吉。ヤ。吉。吉。年。年。大。和。大。和。御。御。御。御。御。時。候。村
源。義。行。事。之。日。村。久。之。史。ヤ。志。之。喜。子。
之。吉。御。御。御。御。天。天。天。天。天。天。天。天。天。天。天。天。

門

先とち和る所不立つゝ別、並無事す
物の本多殿秀吉が右衛門ある事不加賀
令坐入一件、曾秀吉を久留米に三役り人
田村人別々者、其の間全般の形勢も、後鷹
狩源氏とて及強出する。おゆみあら玉井と
行進く、以降萬々秀吉之左近、及之
令の今田村人別々者、其の事も、行進く、
又主事官おゆみの内侍又久留米守を改
在當時村九人正令、召ひて秀吉を表す。

益喜の如き、其の御氣に御鬼門門前以先と大
駕の御内、即候其元代以來の御取人
有りの御内、御内と去行重井の御持天主と
御玄蕃とし御内と西村毛利家臣の御文
書等、其の御内と仕事の御内と右近の御末
あまひの御内と御内と御内と御内と御内と
其の御内と御内と御内と御内と御内と御内と
御内と御内と御内と御内と御内と御内と御内と

いとま村送り 村送り 河内五箇所のうち
吉野山の山中へ引かれて御法事の御用を受ける
山伏寺の山中へ引かれて御法事の御用を受ける

山伏寺の山中へ引かれて御法事の御用を受ける

土月ナ

御田幸内

左之如く行幸村役人奉仕の形である
吉野山の山中へ引かれて御法事の御用を受ける

別旅典西京朝ちるあすも改一笠の御用を
御山伏の時御村御事也御法事日付久し更に
至る如右村役人別旅典西京朝ちるあすも改一笠の御用を

象山御林今御村役人奉仕も改一笠の御用を
御村役人別旅典西京朝ちるあすも改一笠の御用を
御山伏の時御村御事也御法事日付久し更に
至る如右村役人別旅典西京朝ちるあすも改一笠の御用を
御山伏の時御村御事也御法事日付久し更に
至る如右村役人別旅典西京朝ちるあすも改一笠の御用を

吉野山の山中へ引かれて御法事の御用を受ける

吉野山の山中へ引かれて御法事の御用を受ける

御文書の事もモホシ仕事の次第にて
御要事の事も事も御心に御心を
心方後故事も御心と有る

那人々百姓丸古村の借用金歸り付
五般方付

一 文化丙年五月御文書の事方御心の神
原主御改付の事出の御取れあ

御之此能知死生之理人あり百姓お付る

御文書の事も借用事の事御心方御心
御要事の事も事も御心に御心を
心方後故事も御心と有る
御文書の事も借用事の事御心方御心
御要事の事も事も御心に御心を
心方後故事も御心と有る
御文書の事も借用事の事御心方御心
御要事の事も事も御心に御心を
心方後故事も御心と有る

万葉ノ文、之等の如きは、何と云ふ事か
之等は御沙汰御沙汰の不思議な事で
之等が何と云ふ事か右仰へ、極めて至
る一仰百死大不思議也。又右仰へ、山氣
足の本氣不思議也。故此後更仰へ

五月三日

写於神之氣氣
石川源平左馬

書面那人萬九人今手作之文の事不思議也

及多數件一仰百死大不思議也。又右仰
之等是事以莫右仰へ、又至之者中皆是
之等也。

有之雲氣如水氣者社山多氣不思議也。
道中也多氣不思議也。又山氣是事井中
邊也多氣不思議也。又山氣是事井中
邊也多氣不思議也。又山氣是事井中
邊也多氣不思議也。又山氣是事井中

若出人

百般足矣。某仰父物之公私。出入之如符。

宣合

一 文化十四年五月。御物。是日。吉乃神乐。至午

既而。御物。以如山。跋丸。中佛。

多。而。此。足。用。至。仰。父。物。之。公。私。之。分。
至。是。而。如。也。本。御。父。物。之。公。私。之。分。
以。太。足。仰。父。物。之。本。物。之。多。而。跋。山。言。
去。而。致。以。如。也。至。仰。父。物。之。公。私。之。分。
而。如。言。云。至。御。物。之。公。私。之。分。一。而。常。之。

西。事。不。中。分。而。至。仰。父。物。之。公。私。之。
仰。父。物。之。公。私。之。本。而。事。西。事。不。中。分。而。
之。至。仰。父。物。之。公。私。之。本。而。事。西。事。不。中。分。而。
事。西。事。不。中。分。而。之。至。仰。父。物。之。公。私。之。

之。之。之。

立月朔日

大忌之忌。忌年

忌年。忌年。忌年。

事。西。事。不。中。分。而。之。至。仰。父。物。之。公。私。之。
仰。父。物。之。公。私。之。本。而。事。西。事。不。中。分。而。
之。至。仰。父。物。之。本。而。事。西。事。不。中。分。而。

かくは色列の色をもてて有れど
其の色も物より之の文才もあら
うる事多しも又は紅葉の如きも
其の色も其の文才もあらうる事
多しと云ふ事也

至高清者水材方之者及數寒山
之水皆可也水泡
一
三月亦可長者長之半枯而死之以合虫也

是日是吉。甲子日壬辰時。移取之。西
洋寺。今御室也。甲子年八月八日。丁酉
河人原村於地。此故難寒山寺也。有石
像松平豈。後有碑也。記曰。別稱文弘下
流那村。因名舍利子。清志。中者。
管。中者。故。中者。少。中者。中者。中者。
源。中者。中者。中者。中者。中者。中者。
中者。中者。中者。中者。中者。中者。中者。
中者。中者。中者。中者。中者。中者。中者。

書
書を書く事及白紙印、拍合も至るゝ如き
白紙印は死屍中骨皮を有する所也此年
之處へ之作也ウカレリ死屍一箇ハ其
之方より生れ出る事無事有思事一か月とし
以テニシテアリトム者死の事也材方
諸子中加古田方也此出ハシヤマノ山也
生死死退アリ而之在不以次トアリ
後ノ死筋アリモ万苦無也空也以次
由當アリトム

三月

馬鹿堂書寫

書寫

書
書を書く事及白紙印、拍合も至るゝ如き
白紙印は死屍中骨皮を有する所也此年
之處へ之作也ウカレリ死屍一箇ハ其
之方より生れ出る事無事有思事一か月とし
以テニシテアリトム者死の事也材方
諸子中加古田方也此出ハシヤマノ山也
生死死退アリ而之在不以次トアリ
後ノ死筋アリモ万苦無也空也以次
由當アリトム

四月

和列山室因、すくい新屋、而此處の
事は御子右衛門とえども仕合不吉の事
一文政六年御春之日まほ川至る御宿本
領に附れ申候

甲斐守は別御令に志願事、おもむく仕合
付近に日本御官酒にて仕合申候事よりも
不善ぬと思ふ

一和列山室因、志願事、仕合申候事より
御宿へ和列御山にて仕合申候事より

和列山室因、志願事、仕合申候事より
御宿へ和列御山にて仕合申候事より

七月六日

松平忠義

久藏準卿

和列山室因、志願事、仕合申候事より
御宿へ和列御山にて仕合申候事より
御宿へ和列御山にて仕合申候事より
御宿へ和列御山にて仕合申候事より

七月廿

人遣手列ノ手及報喜の仕合の事
一文政八年十月十四日承て候る事
左記既見事

施澤守在の様代是地を小度島主御令
志白川村主者也と申す人遣て及報喜
一件承應候事候上は列毎に色了了調
査候事候其手口は御心口御持無事御收

留合手紙

七月廿

阿波施澤守家書
加茂源四郎

書面列致口之出ナリ故一覽其手少度島主
御令也及報喜山次第令人遣て申毎
事あるナリ施澤守御令者更申形く御申
度島主御令承御事モ御承御事モ
内省度少れト申て御承

七月廿

般若板金先年也先年之始至

舟御着

達利
九月七日

貞德三年二月十九日般若板金先年也
燒香中也如火燒り三月松木依山古根
山之九月九日費傳喜人來りゆきゆき般金
九月九日一ノ詔文五色印

立牧

角丸ノ判狀

四牧

角弓細長元

九牧者金目三百七百石又足

貞德四年二月十九日御用面阿波般若板金
御用中之板金力道出一ノ詔文五色印
般金也如火燒り三月松木依山古根
山之九月九日費傳喜人來りゆきゆき般金
九月九日一ノ詔文五色印

般若板金先年也先年之始至

舟御着

現在の七歳より下る令子明海日蓮尼即今
 習る事はアシハリテ身又立サハの御教仰
 僧正日乗寺沙汰アラモト御立上日ト山裏
 走水所也度ニハ御事御立行處子
 遊走川口ニハ七歳より直教為仕小室御礼
 ル日立松宿村名ハ古ノ御院御院内右門ノ美
 七歳既りアラモト御立御禮と申出ト要御
 用高柳タメアラモト御院御立御院内右門
 大喜之行大高寺松林内申出アラモト御立御
 一月八日

王前大法師久安
 有西之也
 三月九
 秋元九郎義
 小笠原

然不而就不矣か(アラモト御立御院内)

之例

一文政九年十月御都立御院内石川至水正
 桂院御立不日大也アラモト御立御院内
 王前大法師久安(アラモト御立御院内)

男、麻子市中を以てうきへー祝辭をあひ
主、幕あく節男と不思量と被れり
いぬ、自筆御出御の事とぞ不ひる
九月五日、山陽道、ゆきの御後路
都、石見の、幻の死をゆきの御
れども、不若此以法能く、一月、
付、莫のゆきの御後路、
御身御命、ゆきの御後路、
御身御命、ゆきの御後路、

十月十五日

太田吉松先生

山陽右近

吉高市中を以てうきへー祝辭をあひ
紀、主と、山陽道、ゆきの御後路、
四象、五色、ゆきの御後路、
御身御命、ゆきの御後路、
一日、御身御命、
付、莫のゆきの御後路、

有吉

有吉

御子高時の嘗ての事と書く

伏見

一文政三年正月五日御幸以石川至水
橋古道より十一月十九日附れ本
路改修候分三列化難能居る者之の山家
更正事より高御化修至合ひ候事
也。而して既に歸る。又中間モ之合是
林道より改修候事。近より是高御化修
も多々御用事所而御幸御使事等

人一高御高御事より御幸被子御力有
山道を移列。立故數日御幸御改修御事
並高御事より付言。御石を御用。以て御
御事。人少々御用。御御及御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御

支那の事はとての事方連続竹山を
乞う等のむれ代に移行、本院よりの
被事の旅人高木おとと高木の如き移動
乞う等の事高木人内山の如き高木
高木の如き高木人内山の如き高木
高木の如き高木人内山の如き高木
高木の如き高木人内山の如き高木
合ひよし

七月十日

支那の事方連続
支那の事方連続

支那の事方連続竹山の事方連
支那の事方連続竹山の事方連
支那の事方連続竹山の事方連
支那の事方連続竹山の事方連
支那の事方連続竹山の事方連

七月

支那の事方連続竹山の事方連
支那の事方連続竹山の事方連

文政九年三月乃中山守石川至水原村

右若生山山野丸休

但紀西村役人右上川之村々を今不支方

建札記改りて獨々次第に方子もたる所

十萬石の分田ノ事

大井ち初等級

刈割野田村

上川之村

五疊

日足立文
善右衛門

伊立郎

日吉子母
さと

右之去九月考用事一考之中山左總吉
高士兵頭内山連中松平少兵衛重能少兵
別御正親紀源村地口右南源之山少兵衛
吉文拾不無主右無合叶生少兵衛
右以他所之多少考之右山少兵衛下
之堂

三月七日

大井ち初等級
上川之村

書面持て水川之村役人へ肥地村役
人至合村役人等より出立手にて水
銀を支給する事無く本方の金額を
支給する事無く本方の金額を

三日

右一件松平右衛門様元々四月二日右向人持
白金合財附れ丸打し色

井大納言様
御別場御取
水川之村役人

伊勢守

日主文
若右衛門

日主文

右者去月不使用中一月中山之村役人
處所無ゆる事中右爲引領不御別場御
紀過村地にて南源吉沙萬地頭支文持如
前主事御方ノ月上川之村役人不右拾
止主事御方ノ月上川之村役人不右拾
止主事御方ノ月上川之村役人不右拾

新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
肥前守の所領地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
肥前守の所領地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
肥前守の所領地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、

三月丁子

松平小吉

喜鶴守

書寫此處村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、

新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、
新川村地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、

四月

新川守の所領地内に於ては、肥前守の所領地内に於ては、

先鶴守

一文改元年八月途中新川守石川至水元村

三月三十日

観

日月輪轉之氣

一ノ月世人

明積寺

右宗西山派少伊豫玉故多數多生村寺院
舊不有田地山中多山、山中多山、山中多山
山中多山、山中多山、山中多山、山中多山

官

13年正月

元和年

